

「局長通知の抜粋と参考情報」

- 広島労働局長からの労働者の健康障害を防止するための必要な措置を講ずるよう周知依頼文の鑑（抜粋）



広労発基 1126 第 4 号
令和 3 年 11 月 26 日

公益社団法人 広島県労働基準協会 会長 殿

広島労働局長



変異原性が認められた化学物質の取扱いについて

労働基準行政の運営につきましては、日頃から格段の御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

標記の件に関し、これまで、

- 1 労働安全衛生法（昭和 47 年法律第 57 号。以下「法」という。）第 57 条の 4 第 1 項の規定に基づき届出のあった化学物質（以下「届出物質」という。）のうち、変異原性試験の結果、強度の変異原性が認められる旨の意見を付したもの（合計 1,037 物質）
- 2 法第 57 条の 4 第 1 項の既存の化学物質として政令に定める化学物質（以下「既存化学物質」という。）のうち、有害性の調査結果等により、強度の変異原性が認められたもの（合計 242 物質）

については、「変異原性が認められた化学物質による健康障害を防止するための指針」（平成 5 年 5 月 17 日付け基発第 312 号の 3 の別添 1。以下「指針」という。別添参照。）に基づく措置を講ずるよう、届出事業者及び関係団体に対して要請されているところです。

今般、「労働安全衛生法第 57 条の 4 第 3 項の規定に基づき新規化学物質の名称を公表する件」（令和 2 年厚生労働省告示第 398 号、令和 3 年厚生労働省告示第 107 号、第 254 号、第 348 号及び第 391 号）により、751 物質の名称を公表されたところですが、それらの化学物質のうち、別紙 1 に掲げる計 15 の届出物質について、学識経験者から、変異原性試験の結果、強度の変異原性が認められる旨の意見がありました。

また、既存化学物質のうち、別紙 2 に掲げる 2 物質について、学識経験者から強度の変異原性が認められる旨の意見がありました。

つきましては、貴団体におかれましても、傘下会員又は傘下事業場に対し、別紙 1 に掲げる届出物質又は別紙 2 に掲げる既存化学物質を製造し、又は取り扱う際には、指針に基づく措置を講ずる等、労働者の健康障害を防止するため必要な措置を講ずるよう周知いただきますようお願いいたします。

1 本文中の「別添」

●「変異原性が認められた化学物質による健康障害を防止するための指針」

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei06/pdf/shishin.pdf>

2 本文中の「別紙 1」

●別紙 変異原性が認められた届出物質に関する情報一覧 (15 の届出物質)

別紙 1 変異原性が認められた届出物質に関する情報一覧

変異原性が認められた届出物質

	名称公表 通し番号	名称公表年月日 名称公表告示番号	名称	構 造	性 状	用途の例
5	28884	令和2年12月25日 厚生労働 省告示第398号	4'-[2-(4-アミノフェノキシ)エトキシ][1,1'- -ビフェニル]-4-アミン	別添参照	固体	中間物
1	28894		[(1S)-1-イソシアナトエチル]ベンゼン	別添参照	液体	合成樹脂原料
4	28984		4'-ニトロ[1,1'-ビフェニル]-4-オール	別添参照	固体	中間物
3	28986		2-(4-ニトロフェノキシ)エチル=メタンスルホナート	別添参照	固体	中間物
2	29022		2-(1-プロモエチル)-1-フルオロ-3,4-ジメチル ベンゼン	別添参照	微黄色澄明の液体	医薬品
7	29108	令和3年3月26日 厚生労働 省告示第107号	オキシランとN,N-ジエチルエタンアミンとトルエンとメタ ノールと[メチル=(2S)-1,3-オキサジナン-2- カルボキシラートを主成分とする、水素と3-ベンジル=2- メチル=(2S)-1,3-オキサジナン-2,3-ジカル ボキシラートの反応生成物]の混合物	-	無色透明液体	治験薬中間体
6	29209		1-[2-(プロモメチル)-3-メチルフェニル]-4-メ チル-1,4-ジヒドロ-5H-テトラゾール-5-オン	別添参照	淡褐色固体	農業の製造中間体
10	29252	令和3年6月25日 厚生労働 省告示第254号	α-(1-アミノプロパン-2-イル(又は2-アミノプロピ ル))-ω-アミノポリ[オキシ(メチルエタン-1,2-ジ イル)]・[(クロロメチル)オキシラン・4,4'-(プロ パン-2,2-ジイル)ジフェノール重縮合物]重付加物と 5,5-ジメチル-3,7-ジオキサ-1,9(2)-ピス (オキシラナ)-4,6(1,4)-ジベンゼナノナフアンの 混合物	-	無色透明液体	自動車用接着剤
11	29278		(3-エチルフェニル)オキシランと(4-エチルフェニル) オキシランと2,2'-(1,3-フェニレン)ビス(オキシ ラン)と2,2'-(1,4-フェニレン)ビス(オキシ ラン)の混合物	-	黄色液体	反応中間体
8	29403		(2Z)-2-フルオロ-3-(4-メトキシフェニル)プロ パ-2-エノイル=クロリド	別添参照	淡黄色固体	開発医薬品中間体
9	29411		6-[1-(1,3-ベンゾチアゾール-2-イル)ヒドラ ジン-1-イル]ヘキサ-1-オール	別添参照	粉末	中間物
13	29482	令和3年9月27日 厚生労働 省告示第348号	5-(オキシラニルメトキシ)-3,4-ジヒドロキノリン- 2(1H)-オン	別添参照	無色透明液体	製造中間体
14	29595		3-プロモ-2-(4-エチルフェノキシ)ピリジン	別添参照	白色粉末	製造中間体
12	29598		2-プロモ-4-フルオロ-1-ニトロ-3-(トリフルオ メチル)ベンゼン	別添参照	黄色の結晶	機能性材料
15	29630	令和3年11月25日 厚生労働 省告示第391号	2,2'-(ブタン-1,4-ジイル)ビス(オキシラン)	別添参照	固体	製造中間体

(参考・中央災害防止協会「安全衛生情報センター」)

- ・令和2年12月25日 厚生労働省告示第398号

<https://www.jaish.gr.jp/anzen/hor/hombun/hor1-1/hor1-1-229-1-0.htm>

- ・令和3年3月26日 厚生労働省告示第107号

<https://www.jaish.gr.jp/anzen/hor/hombun/hor1-1/hor1-1-236-1-0.htm>

- ・令和3年6月25日 厚生労働省告示第254号

<https://www.jaish.gr.jp/anzen/hor/hombun/hor1-1/hor1-1-244-1-0.htm>

- ・令和3年9月27日 厚生労働省告示第348号

<https://www.jaish.gr.jp/anzen/hor/hombun/hor1-1/hor1-1-245-1-0.htm>

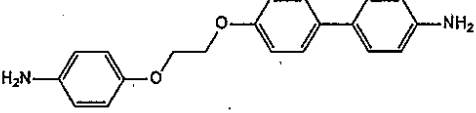
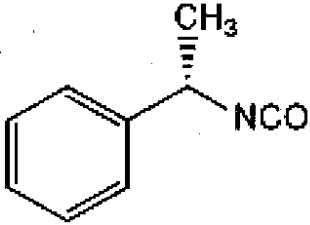
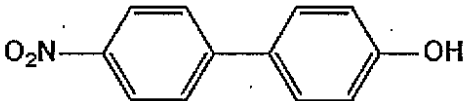
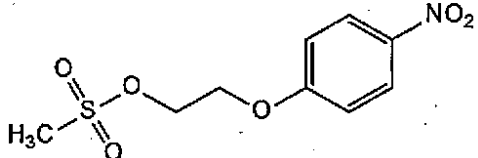
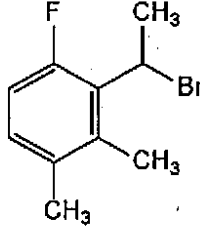
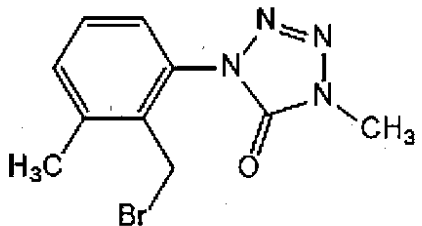
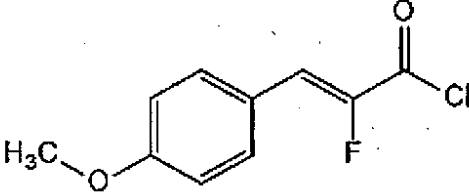
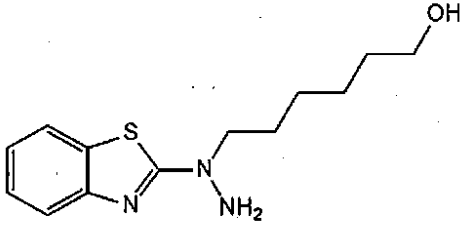
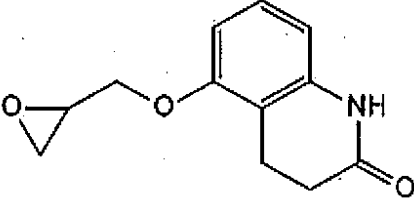
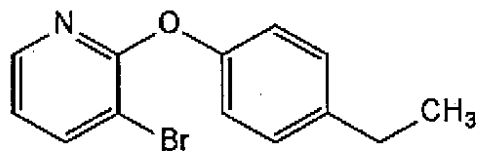
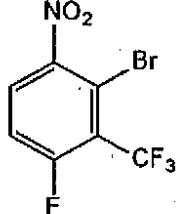
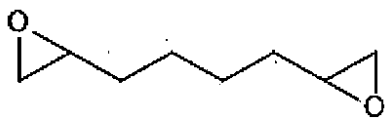
- ・令和3年11月25日 厚生労働省告示第391号

<https://www.jaish.gr.jp/anzen/hor/hombun/hor1-1/hor1-1-247-1-0.htm>

3 本文中の「別紙 1」変異原性が認められた届出物質の構造式

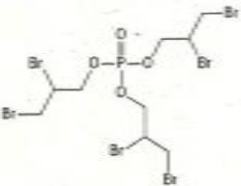
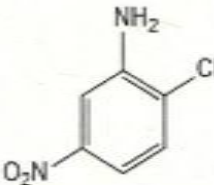
別紙 1 変異原性が認められた届出物質の構造式

(別添)

安衛法官報 通し番号	構造式	安衛法官報 通し番号	構造式
28884		28894	
28984		28986	
29022		29209	
29403		29411	
29482		29595	
29598		29630	

4 本文中の「別紙2」変異原性が認められた既存化学物質一覧

別紙2 変異原性が認められた既存化学物質一覧

	化審法・安衛法 官報公示整理番号	CAS No.	名 称	構造式等	常温の性状等（固体、液体、気体）	用途	変異原性試験結果の概要 ※1	出典
1	1-194L, 2-195G, 2-210H	126-72-7	トリス（2, 3, -ジブロモプロパン-1-イル）=ホスファート		液体 分子量：631.10 融点：5.5℃ 沸点：544.2℃	—	Ames試験最大比活性値 4.54×10 ⁴ (Rev/mg)	・厚生労働省 ・化学工業日報社
2	3-407	6283-25-6	2-クロロ-5-ニトロアニリン		固体 分子量：171.57 融点：120.5℃ 沸点：-℃	—	Ames試験最大比活性値 1.07×10 ³ (Rev/mg)	・厚生労働省 ・化学工業日報社

※1 各変異原性試験の判断基準

- 微生物を用いる変異原性試験（Ames試験）において強い変異原性が認められるとする比活性値は、概ね1,000 (revertants/mg) 以上
- ほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験において強い染色体異常誘発性を示すと評価する濃度は、D₁₀値が概ね0.01 (mg/ml) 以下
- マウスリンフォーマ腫瘍試験では、いずれかの試験系で突然変異頻度が陰性対照の4倍、又は陰性対照より400×10⁻⁶を超えて増加している場合、強い陽性と判断
- in vivo 小核試験で陽性が出た場合には、強い陽性と判断

（参考）

●厚生労働省HP「労働安全衛生法に基づく新規化学物質関連手続きについて」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/enzen/anzeneisei06/index.html

●厚生労働省HP「職場における化学物質対策について」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/enzen/anzeneisei03.html